

研究主題「活動に主体的に取り組める幼児の育成

ー学級全体で行う活動における、

次の活動への期待や意欲につなげる幼児の振り返りに着目してー」

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

江東区立第五砂町幼稚園 主任教諭 鈴木 鮎美

第 1 研究のねらい

幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示）（以下、「幼稚園教育要領」と表記。）では、幼稚園教育の基本において、「幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること」と示されており、幼児の主体的な活動を重視することが求められている。

また、幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）では、幼児の行う活動は、個人での活動、グループでの活動、学級全体での活動など多様な形態で展開されることが必要であると示されている。幼児の活動の中でも、個人やグループで取り組む活動は、幼児一人一人がやりたいことに取り組むため、期待や意欲をもちやすく、主体的に取り組む姿が見られる。しかし、学級全体で行う活動は、幼児一人一人のやりたいことと活動内容が一致しないこともあるため、期待や意欲をもちにくいことがあり、主体的に取り組めていない姿も見られる。このことから、本研究では、学級全体で行う活動に焦点を当てることとした。

さらに、幼児が活動に期待や意欲をもつことに関して、幼稚園教育要領では、「幼児が次の活動への期待や意欲をもつことができるよう、（中略）見通しをもったり、振り返ったりするよう工夫すること」と示されていることを踏まえ、幼児の振り返りに着目した。

そこで、学級全体で行う活動において、幼児の振り返りに着目した指導の工夫を探り、活動に主体的に取り組める幼児を育むことを研究のねらいとした。

第 2 研究仮説

学級全体で行う活動において、次の活動への期待や意欲につなげる振り返りを幼児が行えるよう指導を工夫すれば、幼児は活動に主体的に取り組めるだろう。

第 3 研究の内容と方法

1 基礎研究

- (1) 幼稚園教育要領や先行研究を踏まえ、幼児が活動に主体的に取り組む姿について表 1 に整理した。また、主体的な取組とは、活動の過程を繰り返すことであると捉えた。（図 1）

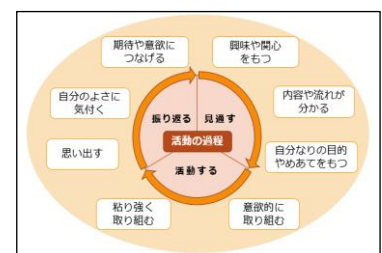


図 1 幼児が活動に主体的に取り組む姿

表 1 幼児が活動に主体的に取り組む姿

活動の過程	幼児の姿	具体的な姿の例
見通す	・活動に興味や関心をもつ。 ・活動の内容や流れが分かり、自分なりの目的やめあてをもつ。	・集中して話を聞く。・進め方が分かる。 ・自分のやりたいことを話す。等
活動する	自分の目的やめあてをもちながら、意欲的に取り組んだり、粘り強く取り組んだりする。	・目的やめあてに向かって取り組む。 ・やってみる。・失敗しても取り組む。等
振り返る	経験したことを思い出し、自分のよさに気付く、次の活動への期待や意欲につなげる。	・やりたいと思ったことができて喜ぶ。 ・次の活動を楽しむにする。等

- (2) 幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）より、幼児が「期待や意欲をもつ」ためには、「思いや願いをもつ」ことが必要であり、主体的な取組に欠かせないことの一つだと捉えた。また、幼児が期待や意欲をもちながら活動の過程を繰り返すためには、幼児なりの思いや願いを、期待や意欲につなげる振り返りを、幼児自身が行うことが重要だと捉えた。

2 調査研究

調査研究を表2のように行った。

表2 調査研究の方法と具体的な内容

方法	具体的な内容
都内公立幼稚園5歳児の行動観察	学級全体で行う活動における対象児の言動の記録と実態把握
都内公立幼稚園教員へのアンケート調査	学級全体で行う活動における幼児と教員の指導の実態について、分析・考察

(1) 調査結果

ア 【都内公立幼稚園対象児の行動観察】

幼児の姿を、基礎研究で示した表1の具体的な姿の例で分類すると、「見通す」「活動する」に関する姿は対象児5名全員の幼児に見られた。「振り返る」に関する姿は、2名の幼児にしか見られなかった。

イ 【都内公立幼稚園教員へのアンケート調査】

学級全体で行う活動の指導の工夫について、「見通す」「活動する」に関する回答をした教員に比べ、「振り返る」に関する回答をした教員は12%と少なかった。(図2)

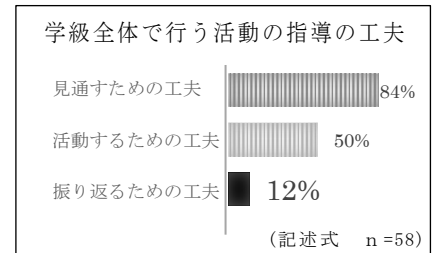


図2 都内幼稚園教員へのアンケート調査

(2) 考察

「見通す」「活動する」ための指導の工夫は意識的に行っている教員が多いが、「振り返る」ための指導の工夫については意識している教員が少なく、幼児の振り返る姿が少ないことに影響していると考えた。そこで、振り返りの指導の工夫について具体的に示すことにより、教員の振り返りに対する意識を高めることが重要だと考えた。さらに、幼児の振り返りと次の活動の指導を関連付けて捉える視点を示すことが、活動に主体的に取り組める幼児を育てることにつながると考えた。

3 開発研究

(1) 学級全体で行う活動の指導のサイクルの開発

教員の「振り返る」ための指導に対する意識を高め、幼児の振り返りを「見通す」「活動する」の指導に生かせるよう、学級全体で行う活動の指導について、図式化して示した。(図3)

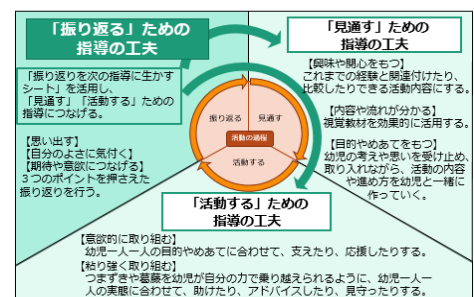


図3 学級全体で行う活動の指導のサイクル

また、振り返りの指導の工夫について、東京都教職員研修センターによる自尊感情に関する先行研究(平成20年度～平成24年度)を参考に、3つのポイント「思い出す」、「自分のよさに気付く」、「期待や意欲につなげる」を明確にし、指導の具体例を整理した。

(2) 振り返りを次の指導に生かすシートの開発

幼児の振り返りから幼児なりの思いや願い、経験したことや幼児のよさ、教員の願いを整理し、次の活動の指導の重点や具体的な指導内容を考える際に関連付けて捉えられるようにした。(図4)

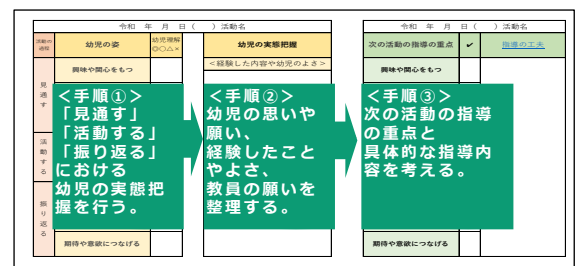


図4 振り返りを次の指導に生かすシート

4 検証保育

都内公立幼稚園、5歳児学級の学級全体で行う活動において、「振り返りの指導の工夫3つのポイント」を用いた指導を行い、研究仮説と開発物の有効性を検証した。(表3)

「活動に主体的に取り組める幼児の育成
ー学級全体で行う活動における、次の活動への期待や意欲につなげる幼児の振り返りに着目してー」

調査研究で行動観察を行った対象児（A児）の第3回検証保育事例を以下に示す。

表3 検証保育の概要

	振り返りの指導の工夫を行った活動	幼児の振り返りをつなげた次の活動
第1回	令和3年9月30日 活動「バルーン」	令和3年10月4日 活動「バルーン」
第2回	令和3年10月28日 活動「製作」	令和3年10月29日 活動「製作」
第3回	令和3年11月16日 活動「図書館訪問」	令和3年11月25日、29日、30日 活動「小学校第3学年児童との交流活動」

(1) 振り返りの指導の工夫

活動「図書館訪問」における振り返りの指導の工夫の一例と、A児の姿について、表4に示した。

表4 活動「図書館訪問」における振り返りの指導の工夫とA児の姿

振り返りの指導の工夫 3つのポイント	指導の工夫の一例	A児の姿 (下線は3つのポイントの有効性が確認できる姿)
思い出す	A児が本を借りる際に、図書館の人に自分から話した場面を動画で見て、その時に感じたことや考えたことを聞いた。	教員の問い掛けに対して、「図書館の人に聞こえるかな、と思って大きな声で言った。」と、 <u>自分がその時に考えていたことを話す。</u>
自分のよさに気付く	・A児のよさについて、他の幼児が気付いたことを話せるようにした。 ・A児が振り返ったことに対して、「相手のことを自分なりに考えていたんだね。」とよさを具体的に認めた。	・動画を見た友達が、「大きな声で話している。」「自分から話しているよ。」と、 <u>A児のよさを認めてくれ、A児は嬉しそうにする。</u> ・教員がA児のよさを認めると、頷いて「そう、ありがとうって言えたの。」と話す。
期待や意欲につなげる	・様々な幼児の振り返りを学級全体で共有し、共感したり、どうすればよいか幼児と一緒に考えたりした。 ・次の活動に期待がもてるようにした。	他の幼児が「初めて会う人と話すのは緊張する。」「何回も会って慣れたら言えるかな。」と話す。教員が「そうだね。また図書館に行くものね。」と答えると、A児は「次も話してみたい。」と嬉しそうに話す。

(2) 幼児の振り返りを生かした次の活動の指導とA児の姿

ア 「振り返りを次の指導に生かすシート」を用いて、A児が図書館訪問において振り返ったことを生かし、次の活動の指導を考えた。(表5)(①～③はシート活用の手順を示す。)

表5 活動「図書館訪問」におけるA児の振り返りを生かした次の活動の指導について

①A児の実態を把握する		②経験した内容やよさ、教員の願い、 幼児の思いや願いを整理する		③次の活動(第3学年児童との交流活動)の 指導の重点と工夫内容を考える	
見通す	「図書館の人に自分から話したい」という目的やめあてをもっていた。	経験した内容やよさ ・やりたいと明確だったことで、自分から取り組むことができた。 ・話す相手のことを考えて、自分なりに行動していた。	教員の願い ・やりたいことに向かって取り組み、満足感を味わう経験を積み重ね、自信を付けていってほしい。	指導の重点	指導の工夫
				興味や関心をもつ	・図書館訪問で、相手のことを考えて話せたことや、次も話してみたいという思いをもったことを思い出せるようにする。 ・自分なりに取り組もうとしている姿を近くで見守る。必要に応じて、児童との橋渡しをし、相手に伝わる喜びを味わえるようにする。
活動する	目的やめあてに向かって、自分から取り組んでいた。	自分のよさに気付いたり、次を楽しみにしたりしていた。	幼児の思いや願い ・図書館訪問の人に聞こえるように大きな声で言った、次も話してみたい。	内容や流れが分かる	
				自分なりの目的やめあてをもつ	
				意欲的に取り組む	
振り返る				粘り強く取り組む	
				思い出す	
				自分のよさに気付く	
				期待や意欲につなげる	

イ 表5③で示したように、A児の振り返りを生かして考えた指導の重点と工夫内容について、次の活動「第3学年児童との交流活動」で実践し、A児の姿を分析した。(表6)

表6 「第3学年児童との交流活動」において主体的に取り組むA児の姿

活動の過程	主体的に取り組むA児の姿
見通す	・児童から招待状が届いたことを知り、作品を見ることや、児童に質問することを楽しみにする。 ・教員が「図書館訪問でありがとうが言えたものね。」と、よさと関連付けて話をすると、大きく頷く。
活動する	・児童と挨拶をしたり、自分の名前を呼ばれると、緊張しながら大きな声で返事をしたりする。 ・作品を見ながら、「何でつくっているのかな。」「うさぎ、かわいいね。」等と、児童との会話を楽しむ。別れる際に「ありがとうございました。」と言い、児童と笑顔でハイタッチをする。
振り返る	・作品について、「本物みたいだった。」「粘土でつくっていた。」等、気付いたことを話す。 ・児童との交流について「もっと話をしたかった。」「お礼を言えた。」と話す。 ・「自分もつくってみたい。」「幼稚園に3年生を招待したい。」と話す。

「活動に主体的に取り組める幼児の育成
—学級全体で行う活動における、次の活動への期待や意欲につなげる幼児の振り返りに着目して—」

「図書館訪問」で経験したことや自分のよさ、思いや願いを次の活動への期待や意欲につなげられるよう振り返りの指導を工夫するとともに、A児の振り返りを次の活動の指導に生かしたことで、A児は「小学校第3学年児童との交流活動」に主体的に取り組むことができた。

(3) 教員の意識の変容

活動に主体的に取り組むために、幼児の振り返りに着目した指導の工夫が効果的であると教員が実感できたことで、教員の振り返りに対する意識を高めることにつながった。(表7)

表7 教員への事後アンケート

幼児の変容について	自分たちで考えて行動する姿が増えた。友達のよいところに気付くようになった。
振り返りに対する意識について	目的やめあてに合わせて振り返りをすると、幼児自身が達成感を味わったり、次の課題を見付けたりすることができると分かった。

(4) まとめ

検証保育を通して、経験したことや自分のよさを次の活動につなげていくため、幼児の振り返りを意図的に計画することが効果的だと分かった。そこで、「経験のつながり整理シート」を作成し、活動と活動のつながりを視覚化して計画・整理した。(図5)

活動のねらい	○年中組の競技の手伝いをしたり、手本となって動いたりするなど、年長組として行動する喜びを味わう。	○年中組を喜ばせようと自分なりに考えたり、行動したりする。 ○自分から話しかけたり、質問に自分なりに答えたりする。	○図書館に行き、自分で選んだ本を借りる喜びを味わう。 ○図書館の人に質問したりおれを伝えたりして関わりをもとうとする。	○児童がつくった作品に興味や関心をもち、つくり方や材料を自分なりに考える。 ○自分から質問したり、話を聞いたりするなど、児童との交流を楽しむ。	○様々な人を招待し、喜んでもらおうと自分なりに考えて行動する。 ○友達と協力して一つの物をつくり上げる楽しさを味わう。
活動名	運動会	年中組との交流	図書館訪問	第3学年児童との交流活動	遊園地ごっこ
振り返りの言葉掛け	運動会 「どんなことを考えてお手伝いしていたのかな。」	年中組との交流 「自分から話してみてもどんな気持ちだったのかな。」	図書館訪問 「借りる時にどんなことを話したのかな。」	第3学年児童との交流活動 「どんな話をしたのかな。」 「次はこうしてみたい、と思ったことはあったかな。」	遊園地ごっこ 「年中さんが喜んでくれてどんな気持ちだったかな。」
幼児の振り返りに対する言葉掛け	「どうすれば年中さんが頑張れるか考えられたね。」	「自分から話しかけてみてよかったね。年中さんも喜んでくれてよかったね。」	「自分で考えて言えたね。」	「たくさん話ができてよかったね。」 「こんなことをしてみたいと思えたことがいいね。」	「自分たちが考えたことで喜んでくれてよかったね。」

図5 経験のつながり整理シート(使用例)

第4 研究の成果

- 「振り返りの指導の工夫3つのポイント」を押さえた振り返りの指導の工夫により、幼児は経験したことを思い出し、気付いた自分のよさを次の活動への期待や意欲につなげる振り返りを行い、次の活動に自分なりの目的やめあてをもって主体的に取り組むことができた。
- 「振り返りを次の指導に生かすシート」を活用したことにより、教員は幼児の振り返りから捉えた幼児の思いや願い等を、次の活動の指導に生かすことができた。
- 経験したことや自分のよさを次の活動につなげていくために、活動と活動のつながりや幼児の振り返りを「経験のつながり整理シート」として計画、整理することができた。

第5 今後の課題

- 学級全体で行う活動以外の活動においても振り返りを効果的に行い、経験したことや自分のよさを次の活動への期待や意欲につなげられるようにすることで、様々な活動に主体的に取り組む幼児を育むことを目指していく。
- 教員の振り返りの指導に対する意識をさらに高め、指導の工夫の充実を図ることで、小学校以降の主体的に学習に取り組む態度の基礎となる力を育むことにつなげられるようにする。